

岸和田のフクロウ

風間 美穂

大正 11 (1922) 年 11 月 1 日に岸和田市制が施行され、2012 年でちょうど 90 年になります。これを記念して、自然資料館では 10 月 3 日から 12 月 2 日まで、特別展「岸和田の自然・90 年の物語」を開催しています。岸和田の 90 年の自然環境の変遷を、標本や古写真、映像などでごらんください。

さて、今回の展示を行うにあたり、市制施行から 1960 年代までの岸和田の自然について調べてみました。その中心となった資料は、旧制岸和田中学校におられた中島徳一郎氏をはじめとする教員や、生徒のみなさんが採集された標本類ですが、当時の新聞記事や聞き書き集などの自然に関する部分も参考にしました。そのなかのひとつ、「岸和田の人とくらし～70 年の昔を聞く～(1992 年・岸和田市発行)」に、このような記事がありました。

「昭和 5・6 年ごろ、街中でフクロウが鳴いていた(城内校区での聞き取りより)」

フクロウというと、深い山中か動物園にしかいない鳥だと思われることがあるので、この記述に驚かれる方がいるかもしれません。じつは岸和田市には、フクロウが生息しています。さすがに市街地で見られることはほとんどありませんが……

今回は、現在も岸和田で見られるフクロウのなかまについて、紹介していきましょう。

その 1 岸和田で見られるフクロウは、1 種ではない

「フクロウ」というと、一般にもっともよく知られるいわゆるフクロウ、あるいは「ハリーポッター」シリーズに登場するシロフクロウくらいしかなじみがないかもしれません。実際には、フクロウのなかまは南極を除くほぼ世界中から計 2 科 136 種が知られているとされています。そのうち岸和田で見られるのは、体の大きな順にフクロウ(カラスくらいの大きさ)、コミミズク(ハトより大きい)、トラフズク(ハトより大きい)、アオバズク(ハトより小さい)、オオコノハズク(ムクドリより大きい)、コノハズク(ムクドリより小さい)の 6 種です。オオコノハズクとコノハズクは和泉葛城山で、トラフズクは川や海岸付近の林で、コミミズクは埋立地で、アオバズクは神社林や里山で、それぞれ見る



写真 1. フクロウ

写真 2. オオコノハズク
(中村進氏撮影)

ことができますが、実際に姿を見るのはとても困難です。それでもフクロウやアオバズクの鳴き声なら、神於山周辺や和泉葛城山で聞くことができるかもしれません。

その2 みんなホウホウ、と鳴く訳ではない

フクロウの鳴き声といえば、「ホー、ホー」というのがおなじみでしょう。じつは、この鳴き声はフクロウのなかまのうち、アオバズクのもので、トラフズクは太くて低い声で「ウーウー」と、フクロウのオスは「ゴロッホ、ゴロッホ（「糊つけ干せ」とか、「ボロ着て奉公」などと聞きなしされる）」と、コノハズクは「ウッ キョッ コー（仏法僧と聞きなしされる）」、オオコノハズクは「クオー！クオー！」とそれぞれ鳴きます。一方、コミミズクはほとんど鳴きません。また、性別や成長の程度、繁殖期などの違いで、鳴き声は大きく異なります。

その3 渡り鳥のフクロウもいる

フクロウは、年中同じ森の中にいてじっとしている鳥というイメージが強いのですが、岸和田でみられる6種のうち、5種は渡りをします。ツバメと同じように夏にやってきて子育てをし、秋にはいなくなるアオバズク、渡り途中の春と秋に見られるコノハズク、カモと同じく冬だけに見られるコミミズクやトラフズク、大阪での行動がよくわかっていないものの、夏や冬に目撃例があるオオコノハズクの5種です。1年を通じて岸和田にいたことが確実にわかっているのは、フクロウだけです。

このように、岸和田では6種いるフクロウのなかまが観察されていますが、90年前に比べて、数が減っているのは確かなようです。6種のうち、トラフズク、コミミズク、アオバズク、フクロウの4種とは、大阪府レッドデータブック（2000）で絶滅危惧 類に、それ以外の2種は情報不足（評価するだけの情報が不足している種）に指定されています。その原因として、フクロウが巣をつくるのに適した大きな木が立ち枯れたり、伐採されたりしたために繁殖が難しくなっていること、生息地であるまとまった面積の林が平地からほとんどなくなってしまったこと、エサとなるネズミや小鳥がいる広い草地がなくなってしまったことなどが考えられます。

現在、シャープ株式会社が管理を行っている「神於山シャープの森」では、昨年度から「フクロウの森づくり」事業を推進しています。巣箱の設置やフクロウがすみやすい森になるような里山管理などが、継続して行われています。また、道の駅愛彩ランドの近くに設置されたフクロウ巣箱では、今年の春にフクロウの子どもが1羽、巣立ちました。

10年後の、市制100周年のときには、フクロウをとりまく環境はどうなっているのでしょうか。フクロウがすみ自然環境が残っていることを願うばかりです。

（かざまみほ：自然資料館学芸員）

岸和田市の誕生

山中 吾朗

大正11(1922)年11月1日に岸和田市が誕生し、今年は90周年を迎えました。今回は、岸和田市が誕生した経緯についてご説明しましょう。

明治45(1912)年1月に岸和田町・岸和田浜町・岸和田村・沼野村が合併して、新しい岸和田町が生まれました。この4町村は、江戸時代の城内・城下町とそれに近接する地域で、人家が密集し、日常的な住民の交流も密接な地域でした。今でも「旧市」と呼ばれる地域です。当時の岸和田町は、海岸付近に大阪窯業・岸和田煉瓦綿業・岸和田紡績・東洋麻糸紡績・関西製網・泉州瓦斯などの工場が建ち並び、紀州街道

沿いには五十一銀行・岸和田銀行・寺田銀行など多くの金融機関や商店などが軒を連ねていました。当時の岸和田は間違いなく泉州随一の商工業都市だったのです。

市制施行を求める動きは大正 9 年頃から活発になりました。その主な理由は、岸和田町が泉南郡に納める郡費の負担が過重であること、人口は 3 万人を超えて市制施行の要件を満たしていることなどでした。一部に反対意見もあったものの、大正 10 年 6 月に「市制施行に関する意見上申書」が泉南郡を経て大阪府に提出されました。当初岸和田町は同年 10 月 1 日からの市制施行を目指していましたが、書類の不備などで府から内務省への提出は同年 12 月中旬までずれこみ、内務省の役人が現地視察に来たのは翌 11 年 4 月のことでした。このとき内務省の役人による質問の一つに「岸和田町はどのような社会事業を行っているか」というものがありました。役人は町として社会事業が皆無であることに驚いたものの、在郷軍人会が計画している公会堂建設については絶賛しました。これが決め手であったのかどうかはわかりませんが、同年 10 月 24 日付けの内務省告示で、11 月 1 日より岸和田町に市制を施行することが告示され、市制施行が正式に認可されました。当時の人口 3 万 673 人、面積 4.23km²、大阪府内では大阪市・堺市に次いで 3 番目の市で、全国では 87 番目でした。

なお、公会堂は市制施行後の大正 13 年 9 月に完成し、市に寄付されました。現在の市役所からこなから坂を挟んで向かい側の駐車場、かつて市民会館があった所がありました。昭和 34 年に解体されたので、古くから岸和田に住んでおられる方はご記憶の方も多いでしょう。設計は元岸和田藩家老家に生まれ、後に難波高島屋などを設計した久野節で、木骨鉄網張モルタル及び人造石塗・二階建てのモダンな建物でした。また、大正 12 年から昭和 16 年までの市役所も鉄筋コンクリート・モルタル塗・二階建てで、今の市役所前の交差点上にありました。昔の写真を見ると当時の市役所周辺はモダンな建物が建ち並んだおしゃれな町だったようです。

(やまなかごろう：郷土文化室)



写真 1. 旧市役所



写真 2. 公会堂

Information

■岸和田城の展示案内■

岸和田市市制施行 90 周年記念事業企画展

「岸和田市の 90 年」

期 間：2012 年 10 月 3 日（水）～12 月 2 日（日）

時 間：10 時～17 時(入場は 16 時まで)

入場料：大人 300 円 中学生以下無料

休場日：月曜日(10 月 8 日は開場します)

■きしわだ自然資料館展示案内■

特別展「岸和田の自然・90年の物語」

市制施行90周年事業の一環として、実物資料やパネルにより、岸和田の自然90年の変遷を紹介します。

期 間：2012年10月3日（水）～12月2日（日）

場 所：自然資料館1階ホール

時 間：10時～17時（入場は16時まで）

入場料：大人400円 中学生以下無料

休館日：10月8日を除く毎週月曜日・10月9日・
31日・11月30日

【きしわだ自然友の会 会員募集】

きしわだ自然友の会は、自然資料館と協力し、独自の行事や出展、会誌などを通して自然を楽しく学んでいる団体です。自然が好きで、生物や地学をもっと楽しみたい・学びたい人は、ぜひご入会ください。未就学児の方も参加できる行事も多数あります。学校園の授業に活用できるプログラムもあります。

対象：身近な自然に興味のある個人・家族

期間：4月1日～翌年3月31日

会費：個人会員2,000円（中学生以上の方が1人で入る場合）・家族会員3,000円（同居家族全員が対象）、特別会員10,000円（友の会を援助してくださる個人・団体）

申込・問い合わせ：きしわだ自然友の会（自然資料館内 072-423-8100）

■新・チリメンモンスターポスター新発売！■

当館発祥で、今や子どもたちに大人気の「チリメンモンスター」。その新しいポスターが完成しました。

オールカラーのB2版で、大阪湾と和歌山県の近海のチリメンジャコから見つかったチリメンモンスターを仲間ごとに分類し、56種掲載しています。

希望する方は1枚50円でお分けしています。自然資料館で購入されるか、郵送を希望される場合はお問い合わせください。なお、各小学校には今年の5月ごろに一部ずつお送りしています。

遠足や社会見学に、自然資料館をご利用ください。

自然資料館は、大阪南部のいろいろな自然を紹介する自然史博物館です。

展示室には、化石などの実物標本や模型、ジオラマ、体験コーナーなどがあり、見て、ふれて、体験することで、身近な自然をしっかりと学ぶことができます。

春の遠足や社会見学などに、ぜひご利用ください。ご予約のうえ、減免申請書を提出していただくと、教職員を含む全員の入場料が無料となります。雨の場合のみの予約も可能です。

近くには、岸和田城や城下町など、歴史の勉強ができる施設もあります。

お願い [fromM]は、学校教職員に1部ずつお配りください。

担当の方は忙しいところ申し訳ありませんが、よろしくお願い申し上げます。

【from M】では、みなさまからのご意見、ご感想、ご質問等をお待ちしています。博物館での学習、研究等に関する情報、地域の自然環境や歴史に関する面白いトピックスなどがありましたら、ぜひご投稿ください。お名前、連絡先、所属等をご記入の上、右記の宛先までお送りください。電子メールでも受け付けています。

連絡・問い合わせ先

〒596-0072 岸和田市堺町 6-5 きしわだ自然資料館
TEL: (072) 423- 8100 FAX: (072) 423- 8101
Email: sizen@city.kishiwada.osaka.jp
自然資料館ホームページ URL:
<http://www.city.kishiwada.osaka.jp/site/shizenshi/>
（Yahoo Japan の検索で「きしわだ」と入力し、検索すれば、簡単です）